

〔安齋隨筆後編五〕一胡床床机 胡床と床机とは一物にあらず、別物也、貝原好古が和事始に、胡床俗に云床机と記し、新井氏が軍器考に、床几と云物は古の胡床也と記したるは誤也、胡床は今も猿樂の鼓打等が腰かけるもの也、是を俗に床机と稱するは誤也、中胡床の名、日本紀神代卷に見えたり、されども唯腰かける事を云はんとて、後代の胡床の字を借り用しなるべし、又禁庭に公事行はる、時、官人腰かくるに、胡床も床子一名床机兩品ともに用らる、内裏儀式に床机床子と記すも胡床も見えたり、今も兩品用らる、也。

〔倭名類聚抄十四具〕牙床。遊仙窟云、六尺象牙床、楊氏漢語抄云、牙床、久禮度古、

〔箋注倭名類聚抄六具〕所引遊仙窟原書作八尺、按牙牀又見儀式大嘗會條、内匠寮主水司式、又

古事記應神天皇條、西大寺資財帳、大神宮儀式帳、内宮長曆送官符、有吳牀、蓋此物。

〔伊呂波字類抄計字〕牙床。

〔縣居雜錄あぐら〕吳床略。上座あひくらの意なるべし。

〔倭訓栞中編六久〕くれどこ 倭名抄に牙床をよめり、くれは吳の義也、さらば古事記に吳床と見えたる是也、吳床をあぐらとよめるは、胡床と同じく心得たる也。

〔日本書紀通證二十二體〕胡床アグラ。倭名抄久良、今按編座此間名阿之義也。

〔和漢三才圖會三十二家飾具〕胡床略。中 摺疊椅。太太美阿久良略。中

摺疊椅、其制似胡床、而有機、無用時疊之。

〔古事記上〕於是高木神告之、此矢者所賜、天若日子之矢、卽示諸神等詔者、或天若日子不誤命、爲射惡神之矢之至者、不中天若日子、或有邪心者、天若日子於此矢、麻賀禮此三字以音云、而取其矢、自其矢穴、衝

返下者、中天若日子寢胡床、之高胸坂、以死此還矢可恐之本也

〔古事記傳十三〕胡床、和名抄に胡床、風俗通云、靈帝好胡服、京師皆作胡床、此間阿久良アグラとあり、書紀

胡床初見